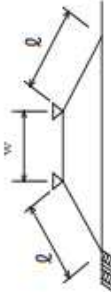
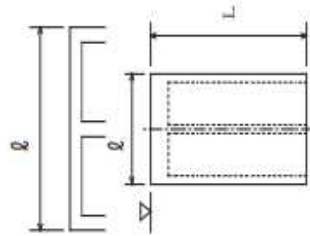
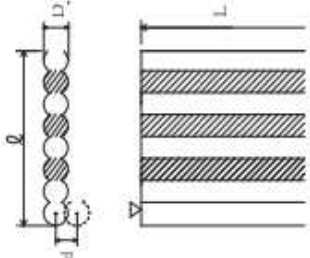


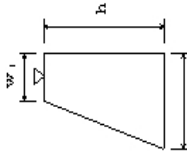
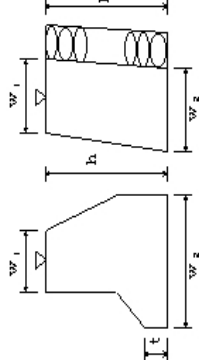
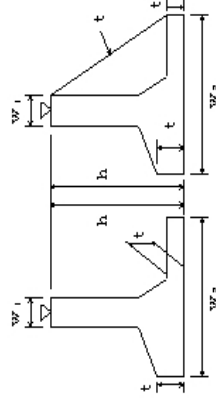
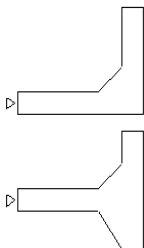
出来形管理基準及び規格値

工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高	▽	-50	100本に1箇所 100本以下は2箇所測定。1箇所につき4本測定。		
	位置・間隔	W	D/4以内			
	杭径	D	設計値以上			
	深度	L	設計値以上	全本数 $L = \ell_1 - \ell_2$ ℓ_1 は改良体先端深度 ℓ_2 は改良体天端深度		
土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高	▽	±100	基準高は、施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		
	根入長		設計値以上			
土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さ	ℓ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)		
	配置誤差	d	100		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長	ℓ	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	延 長	L1, L2	-200	1施工箇所毎。		

単位:mm

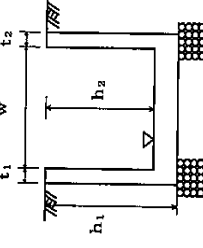
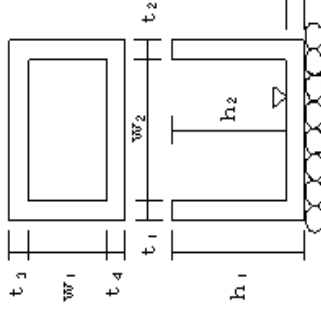
工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高	▽	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
	天端幅	W	-100			
	法 長	ℓ	-100			
	基準高	▽	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意・仮設は除く)		
地中連続壁工 (壁式)	基準高	▽	±50	基礎高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m)につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		
	連壁の長さ	ℓ	-50			
	変位		300			
	壁体長	L	-200			
地中連続壁工 (柱列式)	基準高	▽	±50	基礎高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m)につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		
	連壁の長さ	ℓ	-50			
	変位	d	D/4以内			
	壁体長	L	-200			

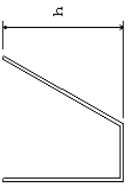
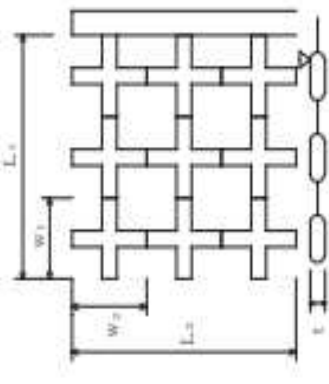
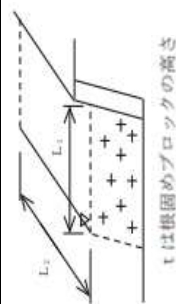
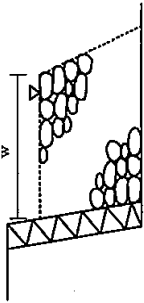
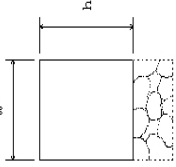
単位:mm

工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
現場塗装工	塗膜厚			塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		
		基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のは、1施工箇所につき2箇所。		
		厚さ t	-20			
		裏込厚さ	-50			
場所打擁壁工	幅 w_1, w_2		-30			
		高さ h	-50			
			-100			
		延長 L	-200	1 施工箇所毎		
プレキャスト擁壁工	基準高 ∇		± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のは1施工箇所につき2箇所。		
		延長 L	-200	1 施工1箇所毎。		

単位:mm

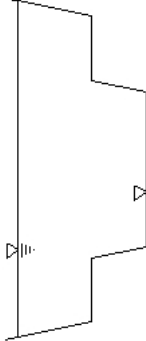
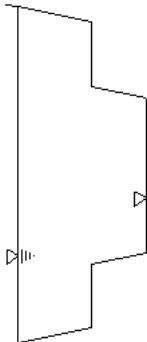
出来形管理基準及び規格値

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位mm	摘要
(ブレキヤストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。			
	延長 L	-200	1箇所／1施工箇所			
現場打水路工	基準高 ▽	±30	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
	厚さ t ₁ t ₂	-20				
	幅 w	-30				
	高さ h ₁ h ₂	-30				
	延長 L	-200				
街渠柵(集水柵)・ マンホール工	基準高 ▽	±30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合			
	※厚 さ t ₁ ～t ₅	-20				
	※幅 w ₁ , w ₂	-30				
	※高さ h ₁ , h ₂	-30				
街渠工 (街渠コンクリート)	幅 w	-10	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 コア一採取は、200mにつき1箇所以上。ただし施工延長200m未満100m以上の場合については、1個採取するものとする。また、複数路線の場合は各路線毎に同上の採取頻度とする。			
	厚さ t	-10				

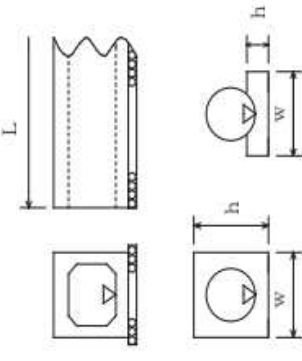
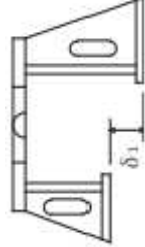
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	
刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	±2…h ≤0.5m ±3…0.5<h ≤1.0m ±4…1.0<h ≤2.0m	図面の寸法表示箇所で測定。			
	外周長 L (m)	± (10+L/10)				
根固めブロック工	層積	基準高 ▽	±100			
		厚さ t	-20			
		幅 W1、W2	-20			
	乱積	延長 L1、L2	-200	1施工箇所毎		
		基準高 ▽	± t/2	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			延長 L1、L2			
捨石工		基準高 ▽	-100			
		幅 w	-100			
		延長 L	-200			
護岸付属物工	幅 w	-30	各格子間の中央部1箇所を測定。			
	高さ h	-30				

単位:mm

単位mm

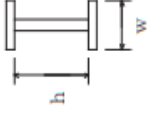
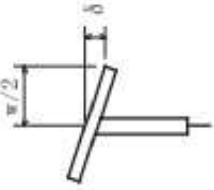
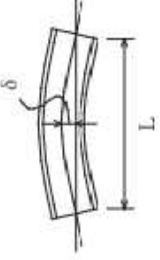
工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘 要		
		個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)					
		上限	下限						
浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高 ▽	電 気 船	200ps	+200	-800				
			500ps	+200	-1000				
			1000ps	+200	-1200				
		デ ィ ェ ー ゼ ル 船	250ps	+200	-800				
	420ps		+200	-1000					
	600ps								
	1350ps		+200	-1200					
	幅			-200					
	延長			-200					
	浚渫船運転工 (グラブ船)	基準高 ▽	上限+200						
		幅	-200						
延長		-200							

出来形管理基準及び規格値

工種			測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストバイブ工)		基準高 ▽		±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。		
		※幅 w		-50			
		※高さ h		-30			
		延長 L		-200			
検査路製作工	部材	部材長ℓ (m)		±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	1施工箇所毎 図面の寸法表示箇所で測定。		
	部材	部材長 w (m)		0～+30			
鋼製伸縮継手製作工	仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ1 (mm)		設計値±4	両端部及び中央部付近を測定。		
		フィンガーの食い違い δ2 (mm)		±2			
	部材	部材長ℓ (m)		±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10		 (実測値) δ ₂	
落橋防止装置製作工	部材	部材長ℓ (m)		±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所で測定。		
	部材	部材長ℓ (m)		±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10			

単位:mm

出来形管理基準及び規格値

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	概要
プレベーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼桁	
		フランジの直角度 δ (mm) w (mm)	$w/200$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
		部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
	仮組立時	主桁のそり δ (mm) L (m)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$	各主桁について10~12m間隔を測定。		
橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		

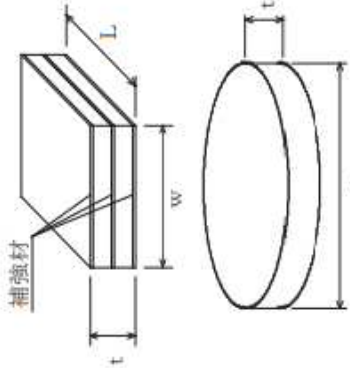
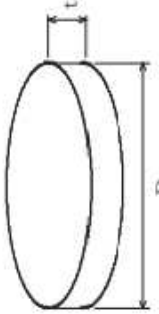
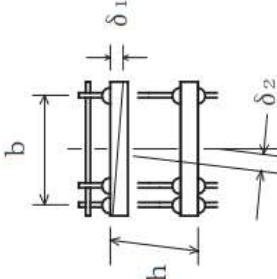
単位:mm

出来形管理基準及び規格値

工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	概要
	上 接合部 用鋼 材造 物と の	孔の直径差				
工種 製造品 (金属支保工)	中心距離	ボスの突起を基準とした孔の位置ずれ	+2 -0	製品全数を測定。 ※1) ガス切断寸法を準用する。 ※2) 片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートとの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4) 全移動量分の遊間が確保されているのかを測定する。 ※5) 組立後に測定。		
		≤1000mm	1以下			
		ボスの突起を基準とした孔の位置ずれ				
		>1000mm	1.5以下			
		ドリル加工	+3 -1			
	ボスの中心距離※1	>100mm	+4 -2			
		JIS B 0403—1995 CT13				
	ボスの直径	ボスの直径	+0 -1			
		ボスの高さ	+1 -0			
	ボスの高さ	ボスの直径	+0 -1			
		ボスの高さ	+1 -1			
	上査の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法		JIS B 0403—1995 CT13			
	全移動量※4	φ≤300mm	±2			
		φ>300mm	±φ/100			
組立高さH	上、下面加工仕上げ		±3			
	コンクリート構造用	H≤300mm	±3			
		H>300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て			
	鑄放し長さ寸法※2)、※3)		JIS B 0403—1995 CT14			
	鑄放し肉厚寸法※2)		JIS B 0403—1995 CT15			
	削り加工寸法		JIS B 0405—1991 粗級			
普通寸法		ガス切断寸法	JIS B 0417—1979 B級			

単位:mm

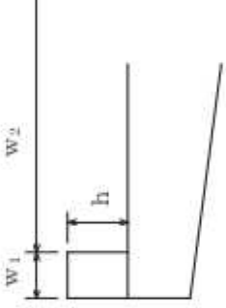
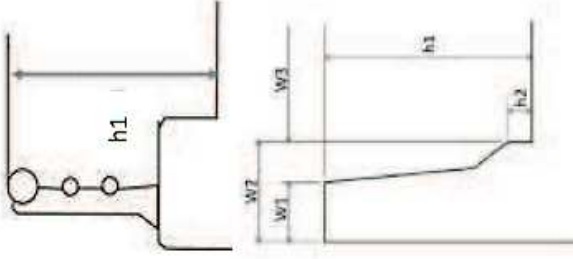
出来形管理基準及び規格値

工種		測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要	単位mm									
鋳造品 (大型ゴム支承工)	幅w 長さL Dさ	w、L、D ≤ 500	0～+5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差													
		500 < w、L、D ≤ 1500mm	0～+1%														
		1500 < w、L、D	0～+15														
		t ≤ 20mm	±0.5														
		20 < t ≤ 160	±2.5%														
	厚さ t	160 < t	±4	軸心上全数測定。													
		相対誤差	w、L、D ≤ 1000mm						1								
	1000mm < w、L、D		(w、L、D) / 1000						アンカーブレースーム製作工	上面水平度 δ ₁ (mm)	b / 500						
	仮組立時	鉛直度 δ ₂ (mm)	h / 500								±5						
		高さ h (mm)															
仮設材製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。													
		基準高 ▽	±20	基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mmに1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもつて代える。)													
	幅 w	0～+30															
	厚さ t	-10～+20															
床版工	鉄筋のかぶり	設計値以上	1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。														
	鉄筋の有効高さ	±10															
	鉄筋間隔	±20															
	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10															

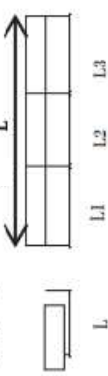
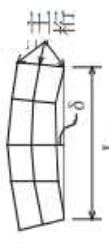
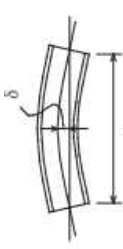
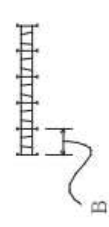
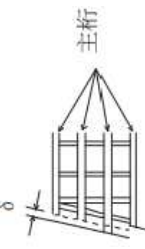
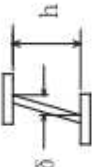
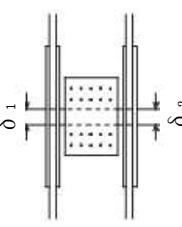
出来形管理基準及び規格値

単位mm

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	舗装面に対し0～2	高さについては車道端部及び中央部の3点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下				
	表面の凹凸	3					
	仕上げ高さ	舗装面に対し0～2					
伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョイント)	高さ	据付け高さ	高さについては車道端部、中央部において橋軸方向に各3点計9点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下				
		橋軸方向各点誤差の相対差	3				
	表面の凹凸	3					
		歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2				
		歯咬み合い部の縦方向間隔 W ₁	±2				
	歯咬み合い部の横方向間隔 W ₂	±5					
	仕上げ高さ	舗装面に対し0～2					

単位:mm				規格値		測定項目	工種	測定箇所	測定基準	概要
地覆工	地覆の幅	W_1	-10～+20	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。						
	地覆の高さ	h	-10～+20							
	有効幅員	W_2	0～+30							
橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天端幅	w_1	-5～+10	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。						
	地覆の幅	w_2	-10～+20							
	高さ	h_1	-20～+30							
	高さ	h_2	-10～+20							
	有効幅員	w_3	0～+30							
	幅		±3							
検査路工	高さ		±4	1ブロックを抽出して測定。						

工 種		測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
支 承 工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)		±5		支 承 全 数 を 測 定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
	可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上					
		コンクリート橋	鋼橋				
	水平度	±5	±(4+0.5(B-2))				
		1/100					
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5					
	可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の1/2以上					
支 承 工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)		±5		支 承 全 数 を 測 定。 B：支承中心間隔 (m) 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (L a、L b) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
	可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上					
		コンクリート橋	鋼橋				
	水平度	±5mm	±(4+0.5(B-2))				
		1/300					
	可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5					
	可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の1/2以上					

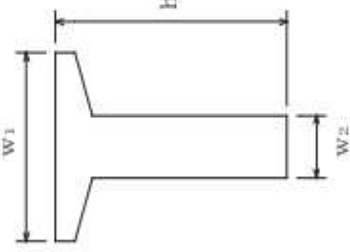
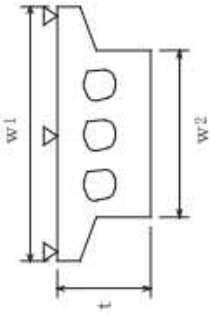
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位mm
架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラバークレーン架設）	全長 L (m) 支間長 Ln (m)	$\pm (20+L/5)$ $\pm (20+Ln/5)$	各桁毎に全数測定。	単桁間の場合 多径間の場合 	
	通り δ (mm)	$\pm (10+2L/5)$	L：主桁・主構の支間長 (m)		
	そり δ (mm)	$\pm (25+L/2)$	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長 (m)		
	※主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	± 10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
	※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1000$	各主桁の両端部を測定。 h：主桁・主構の高さ (mm)		
	※現場継手部のすき間 δ ₁ 、δ ₂ (mm)	± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ ₁ 、δ ₂ のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。 （例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm～8mm） ※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
※規格値のL、Ln、Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。					

出来形管理基準及び規格値

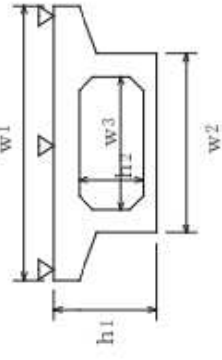
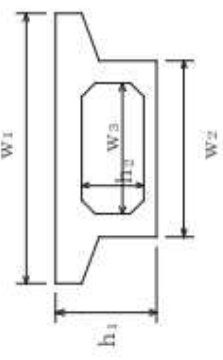
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L/1000$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。	断面図 側面図 δ_1 平面図 δ_2	
	断面の外形寸法	± 5			
	橋桁のそり δ_1	± 8			
	横方向の曲がり δ_2	± 10			
プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \dots L \leq 10\text{m}$ $\pm L/1000 \dots L > 10\text{m}$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。	断面図 側面図 δ_1 平面図 δ_2	
	断面の外形寸法	± 5			
	橋桁のそり δ_1	± 8			
	横方向の曲がり δ_2	± 10			

単位:mm

出来形管理基準及び規格値

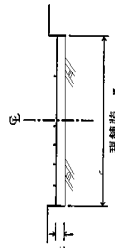
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	単位mm
ポストテンション桁製作工	幅 (上) w_1	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。 ϕ : 支間長 (m)			
	幅 (下) w_2	±5				
	高さ h	+10 -5				
	桁長 ϕ 支間長	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (0-5)$ かつ-30mm以内				
	横方向最大タワミ	0.8 ϕ				
プレキャストセグメント桁製作工 (購入工)	桁長 ϕ	—	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。			
	断面の外形寸法 (mm)	—				
	桁長 ϕ 支間長	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (0-5)$ かつ-30mm以内				
プレキャストセグメント主桁組立工	横方向最大タワミ	0.8 ϕ	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ϕ : 支間長 (m)			
	基準高 ∇	±20				
	幅 w_1, w_2	-5 $\sim$ +30				
	厚さ t	-10 $\sim$ +20				
	桁長 ϕ	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (0-5)$ かつ-30mm以内				
PCホロースラブ製作工	基準高 ∇	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所 (支点付近) で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、床版工に準ずる。 ϕ : 桁長 (m)			
	幅 w_1, w_2	-5 $\sim$ +30				
	厚さ t	-10 $\sim$ +20				
	桁長 ϕ	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (0-5)$ かつ-30mm以内				

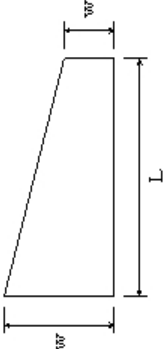
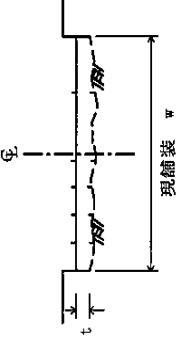
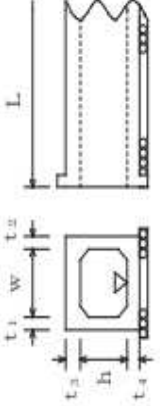
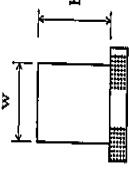
出来形管理基準及び規格値

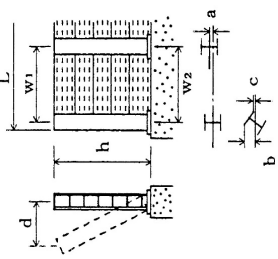
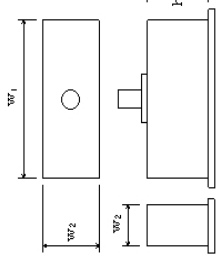
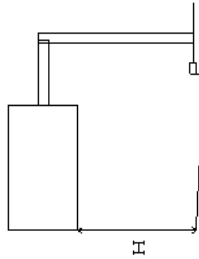
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位mm	概要
PC箱桁製作工	基準高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、床版工に準ずる。 ϕ ：桁長（m）			
	幅（上） w_1	-5～+30				
	幅（下） w_2	-5～+30				
	内空幅 w_3	±5				
	高さ h_1	+10 -5				
	内空高さ h_2	+10 -5				
	桁長 ϕ	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (\phi - 5)$ かいつ-30mm以内				
PC押出し箱桁製作工	幅（上） w_1	-5～+30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、床版工に準ずる。 ϕ ：桁長（m）			
	幅（下） w_2	-5～+30				
	内空幅 w_3	±5				
	高さ h_1	+10 -5				
	内空高さ h_2	+10 -5				
	桁長 ϕ	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (\phi - 5)$ かいつ-30mm以内				
	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。			
架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押出し架設）	桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。			
	そり	—	主桁を全数測定。			

工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10)			
半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高 ▽	±40	-	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層下面にて測定する。	
	厚さ	-45	-15			
	幅	-50	-			
半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±40	-	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。 基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時の路床面の基準高測定ができない場合及び、舗装構造が上層路盤の施工のみの場合に適用する）。 幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層下面にて測定する。	
	厚さ	-25	-8			
	幅	-50	-			
	厚さ	-9	-3			
半たわみ性舗装工 (基層工)	幅	-25	-	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
	厚さ	-7	-2			
	幅	-25	-			
	平坦性	-	3m ² 平方メートル以下 2.4mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下			
半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント（石灰）安定処理工	厚さ	-25	-8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
	幅	-50	-			
	厚さ	-15	-5			
半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	幅	-50	-	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
	基準高 ▽	±40	-			
	厚さ	-45	-15			
ポーラスアスファルト舗装工 (下層路盤工)	幅	-50	-	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線20m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層下面にて測定する。	
	基準高 ▽	±40	-			
	厚さ	-25	-8			
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工)	幅	-50	-	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層下面にて測定する。	
	厚さ	-25	-8			

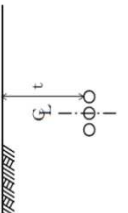
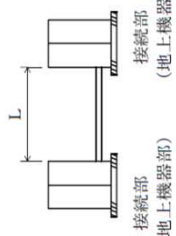
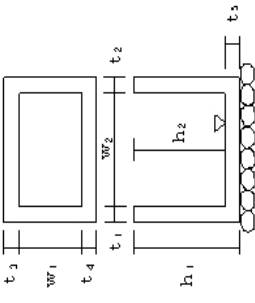
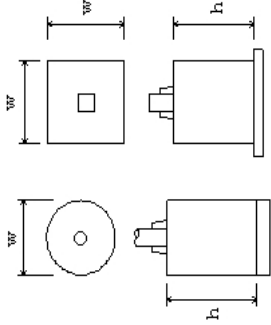
工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X10)			
ポーラスアスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
	幅	-25	-			
	厚さ	-7	-2	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
ポーラスアスファルト舗装工 (表層工)	幅	-25	-		維持工事、及び施工延長100m未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略すること が出来る。	
	平坦性	-	3 m ² 7.74kg/m ² - (σ) 2.4mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下			
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (右灰) 安定処理工	厚さ	-25	-8	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
	幅	-50	-			
	厚さ	-15	-5	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
ポーラスアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	幅	-50	-			
	厚さ	-15	-5	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
	幅	-50	-			
グーラスアスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-3	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
	幅	-25	-			
	厚さ	-7	-2	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は各車線毎に全延長を測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法による。	
グーラスアスファルト舗装工 (表層工)	幅	-25	-		維持工事、及び施工延長100m未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略すること が出来る。	
	平坦性	-	3 m ² 7.74kg/m ² - (σ) 2.4mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下			
	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高と切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
路面切削工	幅 W	-25	-			

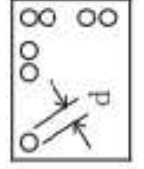
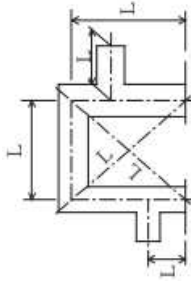
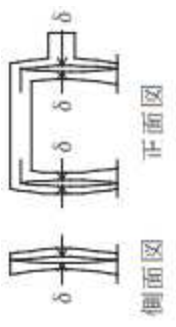
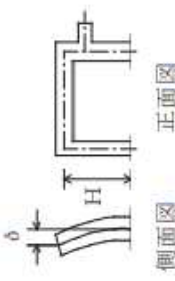


工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	概要
	路盤工	基準高 ▽				
舗装打換え工	厚さ t		± 40	各層毎1箇所/1施工箇所		
	幅 w		該当工種			
	延 長 L		-50			
	厚さ t		-100			
	幅 w		該当工種			
オーバーレイ工	延 長 L		-25	厚さは40mm毎に現鋪装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割りとし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。		
	厚さ t		-100			
	幅 w		-9			
	延 長 L		-25			
	平坦性		10個の測定値の平均(σ10) 3mm以下(σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm以下			
落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長		設計値以上	全数測定		
	アンカーボルト定着長		-20以内 かつ-1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)		
遮音壁支柱製作工	部材長 ℓ (m)		± 3...0 ≤ 10 ± 4...0 > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
	部材			両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
場所打函渠工	基準高 ▽		± 30			
	厚さ t1 ~ t4		-20			
	幅 (内法) w		-30			
	高さ h		± 30			
	延長 L		-50			
	L < 20m		-100			
	L ≥ 20m					
遮音壁基礎工	幅 w		-30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に つき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
	高さ h		30			
	延長 L		-200			

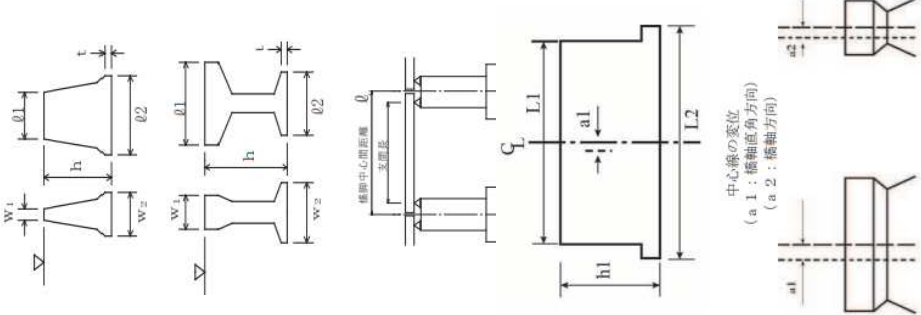
工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
	支柱	間隔 w				
遮音壁本体工		ずれ a	±15	施工延長5スパンにつき1箇所		
		ねじれ b-c	10			
		倒れ d	5			
		高さ h	$h \times 0.5\%$			
		延長 L	+30、-20	1施工箇所毎		
踏掛版工 (コンクリート工)		基準高	-200	1箇所/1踏掛版		
		各部の厚さ	±20			
		各部の長さ	±20			
		厚さ	±30			
踏掛版工 (ラバーシユ-)		各部の長さ	±20	全数		
		厚さ	-			
		中心のずれ	±20			
踏掛版工 (アンカーボルト)		アンカー長	設計値以上	全数		
大型標識工 (標識基礎工)		幅 w1, w2	-30			
		高さ h	-30			
大型標識工 (標識柱工)		設置高さ H	設計値以上	1箇所/1基		

単位:mm

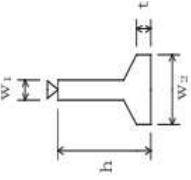
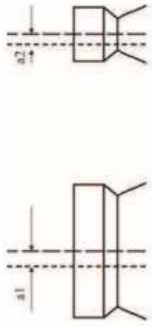
単位:mm					単位:mm	
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
ケーブル配管工	埋設深さ t	0～+50	接続部間毎に1箇所			
	延長 L	-200	接続部間毎で全数。			
ケーブル配管工 (ハンドホール工)	基準高 ▽	±30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合			
	※厚 さ t ₁ ～t ₃	-20				
	※幅 w ₁ 、w ₂	-30				
	※高 さ h ₁ 、h ₂	-30				
照明工 (照明柱基礎工)	幅 W	-30	1箇所/1施工箇所			
	高さ h	-30				

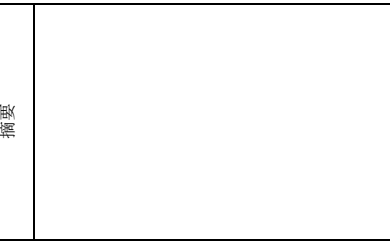
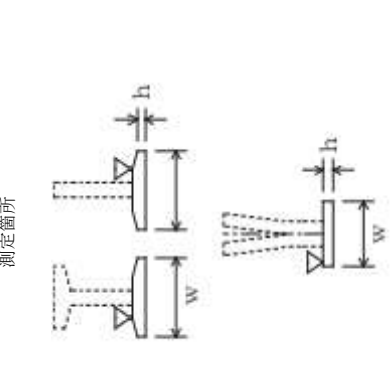
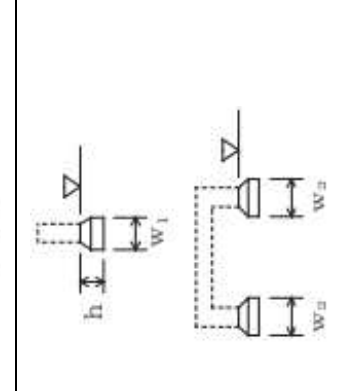
工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	概要
	部材					
鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベースプレートとの鉛直度 δ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。		
		ベースプレート	± 2	全数を測定。		
		孔の径 d	$0 \sim 5$	全数を測定。		
	仮組立時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots L \leq 10m$ $\pm 10 \dots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10) \dots 20m < L$	両端部及び片持ばり部を測定。		
		はりのキャンバー及び柱の曲がり δ (mm)	$L/1000$	各主構の各格点を測定。		
		柱の鉛直度 δ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H/1000 \dots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。 H : 高さ (m)		

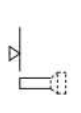
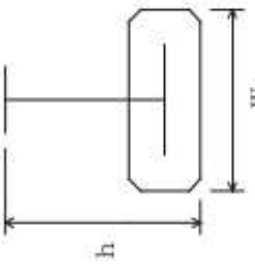
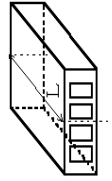
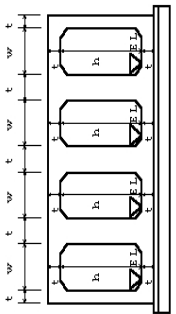
工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
橋台躯体工	基準高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他の寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
	厚さ t	-20			
	天端幅 w_1 (橋軸方向)	-10			
	天端幅 w_2 (橋軸方向)	-10			
	敷幅 w_3 (橋軸方向)	-50			
	高さ h_1	-50			
	胸壁の高さ h_2	-30			
	天端長 ϕ_1	-50			
	敷長 ϕ_2	-50			
	胸壁間距離 ϕ	±30			
	支間長及び 中心線の変位	±50			
	支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 規 格 値	計画高			
		平面位置			
		アンカーボルト孔の 鉛直度			

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
	厚さ t	-20			
	天端幅 w_1 (橋軸方向)	-20			
	敷幅 w_2 (橋軸方向)	-50			
	高さ h	-50			
	天端長 l_1	-50			
	敷長 l_2	-50			
	橋脚中心間距離 l	±30			
	支間長及び 中心線の変位	±50			
	支 承 部 箱 抜 き 規 格 値 の ア ン カ ー ボ ルト の	計画高			
		平面位置			
		アンカーボルト孔の 鉛直度			

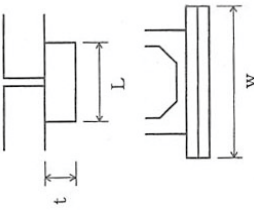
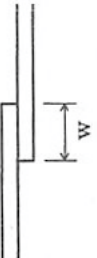
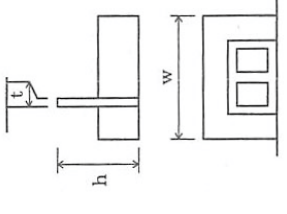
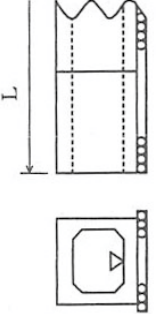
出来形管理基準及び規格値

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表 示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」によ る。		
	厚さ t	-20			
	天端幅 w ₁	-20			
	敷幅 w ₂	-20			
	高さ h	-50			
	長さ ϕ	-20			
	橋脚中心間距離 ϕ	±30			
	支間長及び 中心線の変位	±50			
	支 承 部 箱 アンカ 抜き ー 規 ー 格 ー 値 ル ト の	計画高			
		平面位置			
		アンカーボルト孔の 鉛直度			
		1/50以下			

測定箇所 	概要
	
	

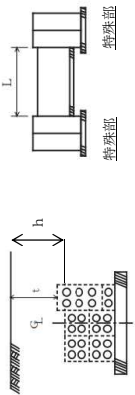
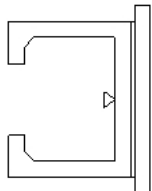
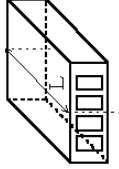
工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
橋脚架設工 (門型)	基礎高	▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
		橋脚中心間距離 ϕ	±30			
		支間長及び中心線の変位	±50			
	現場継手工	現場継手部のすき間 $\delta 1$ 、 $\delta 2$ (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		
橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ϕ (m)		図面の寸法表示箇所を測定。		
		幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ϕ ：スパン長		
		高さ h	+10 -5	各支点及び各支間中央付近を測定。		
		桁長 ϕ スパン長	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (0-5)$ かつ-30mm以内	原則として反組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
現場打躯体工		横方向最大タワミ	0.8 ϕ	各主桁について10～20m間隔を測定。		
	基礎高	▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所を測定。		
		厚さ t	-20			
		内空幅 w	-30			
		内空高 h	±30			
		ブロック長 L	-50			

単位:mm

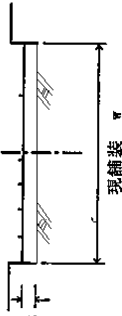
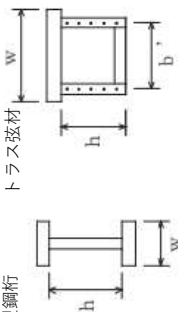
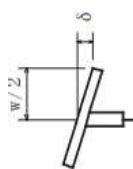
工種			測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要
カラー継手工			厚さ t	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
			幅 w	-20			
			長さ L	-20			
防水工（防水）			幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		
防水工（防水保護工）			厚さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		
防水工（防水壁）			高さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
			幅 w	± 50			
			厚さ t	-20			
プレキャスト躯体工			標準高 ▽	± 30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所、ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する		
			延長 L	-200	延長：1施工箇所毎		

単位mm

出来形管理基準及び規格値

工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
管路工（管路部）		埋設深 h	0～+50	柵間毎に全数。		
		延長 L	-200			
アレイストボックス工（特殊部）		基準高 ▽	±30	接続部（地上機器部）毎に1箇所。		
現場打ボックス工		基準高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚さ t	-20			
		内空幅 w	-30			
		内空高 h	±30			
		ブロック長 L	-50			

単位mm

工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要			
		個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10)						
切削オーバーレー (路面切削)	厚さ t (切削)	-7	-2	厚さは20m毎に「現舗装高さ」と切削後の基準高の差」、 「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算 出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とす る。幅は延長40m毎に1箇所を割とする。断面 延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面 状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。測量方法 は自動横断測定法によることが出来る。 維持工事及び施工延長100m未満、または人力敷均しによ り舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略するこ とができる。					
	厚さ t (オーバーレイ)	-9							
	幅 w	-25							
	延長 L	-100							
	平坦性	—	3mプロファイルマーク-σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm以下						
工種	測定項目	規格値		測定基準		測定箇所	摘要		
桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\begin{array}{l} \pm 2 \cdots w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0 \\ \pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w \end{array}$		鋼桁等	トラス・アーチ等		I型鋼桁 トラス弦材		
				主桁・主構	各支点及び各支間中央付近 を測定。				
					床組など	構造別に、5部材につき1個 抜き取った部材の中央付近 を測定。			
		フランジの直角度 δ (mm)	w/200		主桁	各支点及び各支間中央付近 を測定。			
	圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ/1000		—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長 (mm)				
床版補強工 (炭素繊維シート接着)	重ね継手長	設計値以上		全数					